

小胞体ストレス応答

私たちがもつ驚異の復元力

約 60 兆個の細胞で構成される我々の体は、細胞から分泌されるホルモンと細胞膜に存在する受容体を介した細胞と細胞のコミュニケーションで調節されています。細胞内の小器官である小胞体は、それらのホルモンや受容体などのタンパク質を合成する場所です。すべての細胞には、小胞体内に不良タンパク質が蓄積するのを防ぐ小胞体ストレス応答という精巧な仕組みが備えられていることを、森先生は世界に先駆けて発見されました。現在では、小胞体ストレスが糖尿病や癌など多くの病気の発症に関連することが明らかになってきており、これらの治療法開発への貢献が期待されています。森先生は、小胞体ストレスという新しい分野を切り拓いてきた功績によって、ノーベル賞の登竜門と呼ばれている「ガードナー国際賞（2009 年）」「ラスカー基礎医学研究賞（2014 年）」などの国際賞を多く受賞されており、アメリカの学術情報会社であるトムソン・ロイターが選ぶノーベル賞有力候補に名前が挙がっています。森先生が発見した我々の体が持っている驚異の仕組みをわかりやすく説明してもらおうと同時に科学研究のおもしろさや重要性についても語っていただきます。

日時： 平成 28 年 2 月 27 日（土）
10：00～11：30

会場： 徳島文理中学・高等学校南館ホール
（徳島市山城西 4-20）

講師： **森 和俊 先生**

京都大学大学院理学研究科教授（生物科学専攻、生物物理学教室）



講師プロフィール

略歴：昭和 56 年 京都大学薬学部製薬化学科卒業
平成 8 年 株式会社エイチ・エス・ピー研究所 主任研究員
平成 11 年 京都大学大学院生命科学研究科 助教授
平成 15 年 京都大学大学院理学研究科教授

受賞：ガードナー国際賞、紫綬褒章、上原賞、シヨウ賞、アルバート・ラスカー基礎医学研究賞、トムソン・ロイター引用栄誉賞など多数